

企業価値向上に資する 「リスクマネジメント高度化」に向けて

～損害保険業界の視点から～

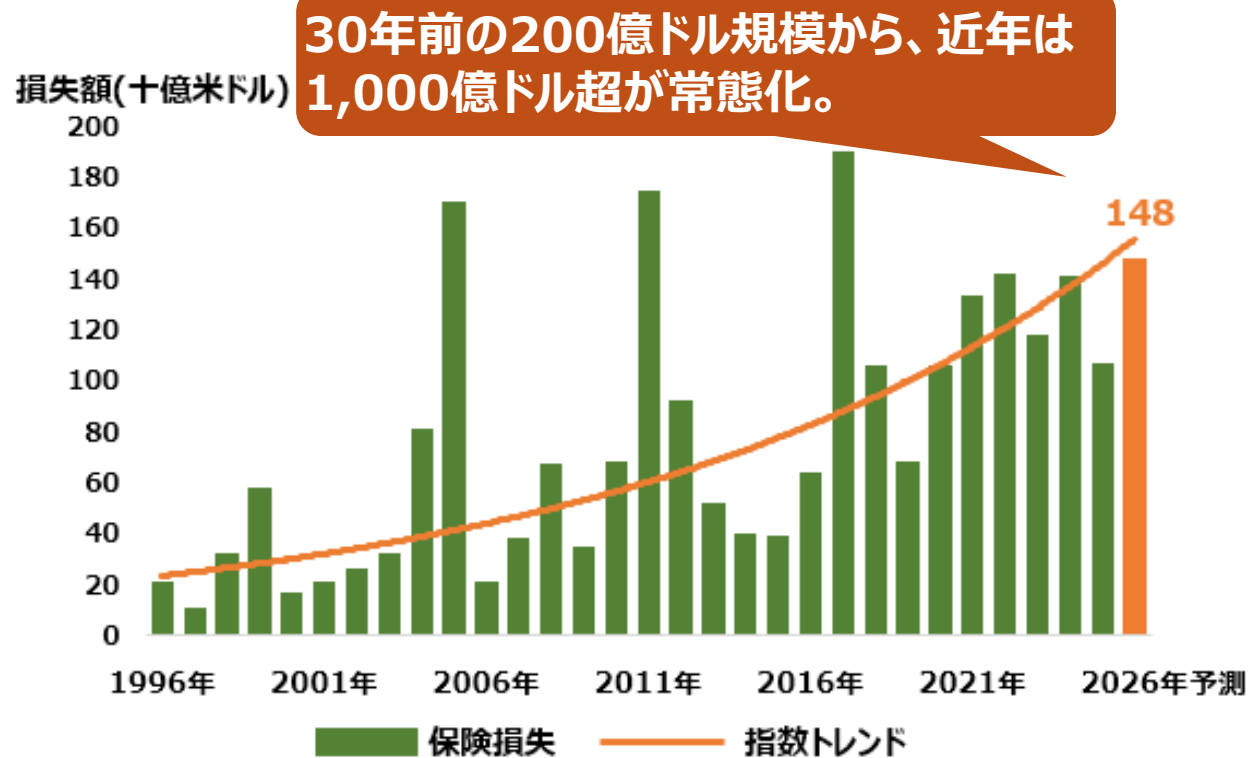
令和 8 年 10 月 1 日

一般社団法人 日本損害保険協会

1. 企業を取り巻くリスク環境の構造変化

国内外における自然災害の激甚化・頻発化や複雑に連鎖する新たなリスクにより、従来と同様の条件でのリスク移転は困難に

自然災害の激甚化・頻発化



世界の自然災害による保険損失と傾向

出典：Swiss Re Institute sigma No 1/2026をもとに当方作成

企業のリスクの複雑化・多様化



サイバーリスク

(過去のデータが乏しい新種リスク)



地政学リスク

(国家間の対立、経済制裁等による影響)



サプライチェーンの途絶

(自然災害や地政学リスクによる供給網の寸断)



ソーシャルインフレーション

(高額賠償等による支払額の急増)

既存の保険商品での対応が
不透明・困難な領域が拡大。

2. リスクマネジメントの高度化の必要性

「企業価値向上」を目指す「攻めのリスクマネジメント」への転換

これまでの日本企業における実態
【As-Is : リスクを最大限保険会社へ移転】



- 全社的なリスクの可視化の不足
- 保険を単なる「コスト」と認識
- 事後的なファイナンスである保険への依存

これからのリスクマネジメント（高度化）
【To-Be : 適切なリスクシェアと戦略的活用】

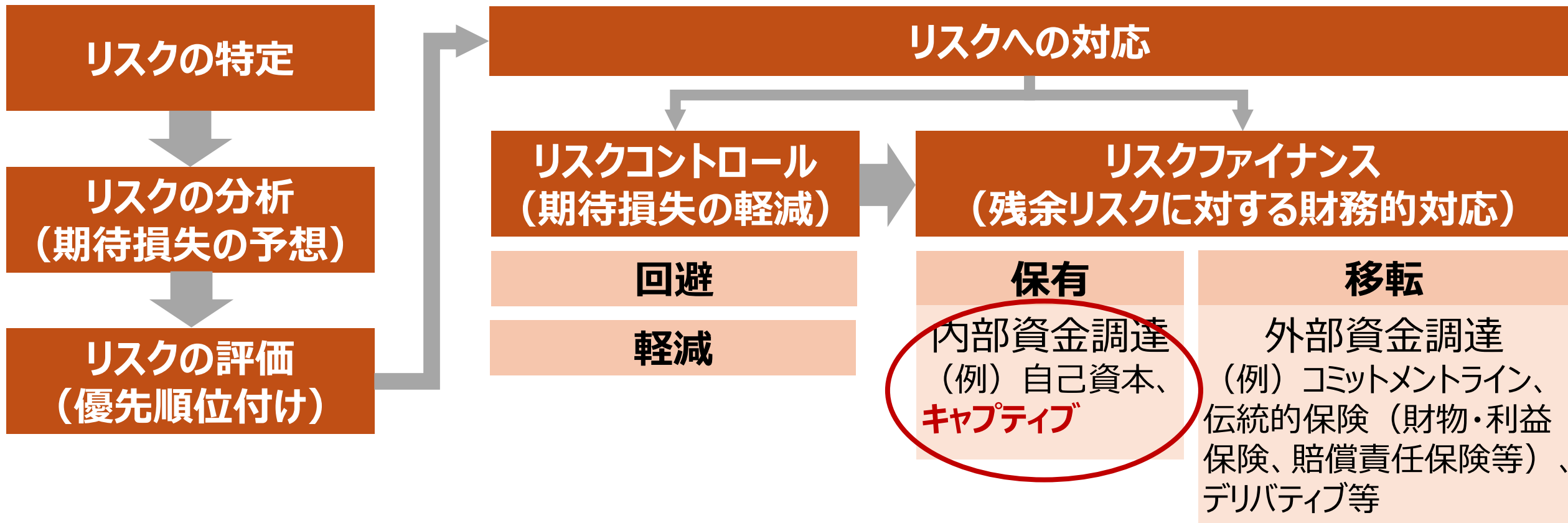


- 全社的・統合的なリスク管理の実現
- 保険を「戦略的なリスクファイナンス手段」と位置付け
- 最適なリスク評価に基づきリスクコントロール（回避・軽減）からファイナンス（保有・移転）までを能動的に設計

企業自らが自社のトータルリスクを適切に管理し、「自社でどこまでリスクを保有し、どこからを移転するか」を主体的に設計する

3. リスクマネジメント高度化の全体像

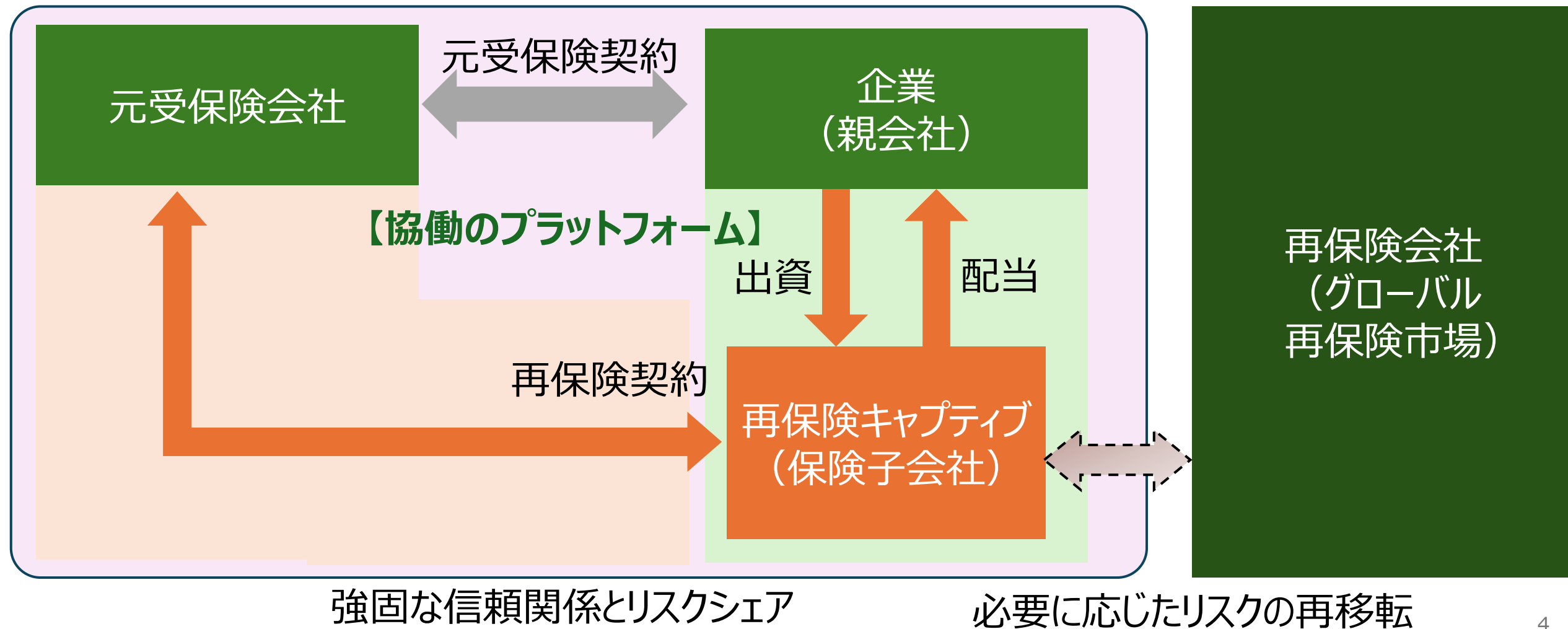
企業自らが「保有」と「移転」の境界線を主体的に設計し、適切なリスクシェアを実現する



リスクマネジメントの高度化において、キャプティブはリスクファイナンスにおける自家保有の手段の一つに位置付けられる。

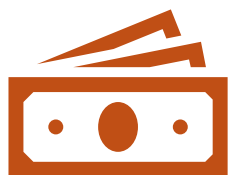
4. 再保険キャプティブの仕組み

再保険キャプティブは企業と元受損害保険会社が強固なパートナーシップのもとでリスクをシェアする協働のプラットフォーム



5. 再保険キャプティブの設立・運営に望まれること

企業のリスクマネジメント高度化に資するものであることが重要であり、適切なリスクシェアを支え、企業の健全な発展を実現することが望まれる



財務の健全性

- 引き受けるリスクに見合った十分な自己資本等の確保。
- 損害発生時の確実な再保険金支払。



実効性あるガバナンスと専門人材の確保

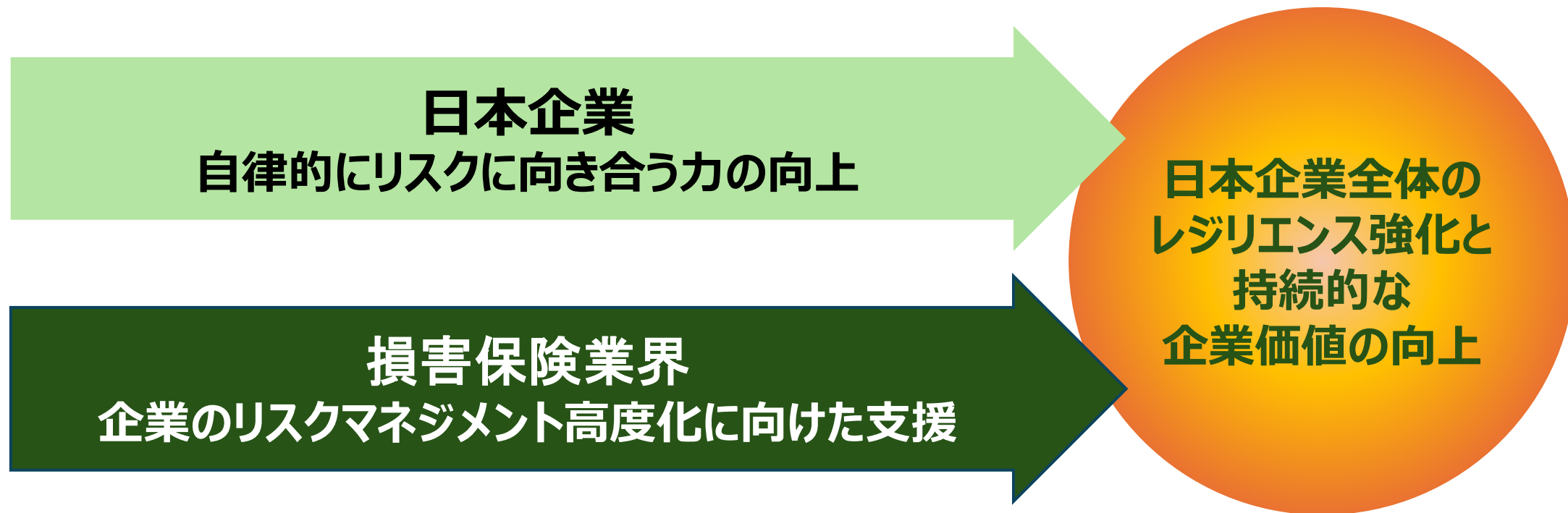
- グループ全体のリスク統制が実効的に機能。
- 適切なリスク管理やグローバル再保険市場等と対等に交渉出来る専門人材の確保。



アンダーライティング情報の透明性

- 保有リスクの実態、事故履歴、防災データ等を元受保険会社へ適時適切に共有し、適切なリスクシェアの基盤とすること。

単なる保険商品の提供に留まらない、共に価値を創造するパートナーへ



本質的な目的は、制度の導入ではなく、
企業自らがリスクに向き合い管理する
「リスクマネジメント能力の向上」そのものである

損保業界として、 顧客企業のリスクマネジメントの高度化を支援する取組を実施

リスクマネジメントセミナー (昨年11月開催済)

- 企業の経営者や財務責任者のリスクマネジメント意識向上をねらいとして開催、641名が参加。
- 経済産業省による基調講演に加え、慶應義塾大学・柳瀬典由教授による企業経営者がリスクマネジメントに取り組む意義をテーマとした講演、パネルディスカッションを実施。



リスクマネジメント人材育成講座 (本年12月開講予定)

- リスクマネジメントの基礎知識をWEB講座で体系的に学習。
- 学術者、保険仲立人、企業のリスクマネージャーなど、各分野の専門家による講義を一度に受講。
- 企業および損害保険業界のリスクマネジメントに携わる方・関心のある方すべてが受講可能。

カリキュラム一覧

リスクマネジメントと企業価値（150分）

リスクファイナンス（180分）

リスクコントロール（60分）

リスク認識と分析・評価（150分）

リスクマネジメントの組織（120分）



一般社団法人

日本損害保険協会

〒101-8335 東京都千代田区神田淡路町2-9
<https://www.sonpo.or.jp>